

利家以下の墳墓に設けられた石造の祠堂を除き、更に碑石と鳥居を建て、神祭式を執行した。

マヘダケケイフ 前田家系譜 大聖寺前田家の系譜で、明和八年九月井上逸齋が之を撰び、第五代の藩主前田利道の生母桂林院につたものである。

マヘダケケイフリヤク 前田家系譜略 一冊。加賀藩前田氏の略譜で、歴世の傳を簡潔に書いてある。

マヘダケセンコウキ 前田家戦功記 一冊。加賀藩祖前田利家の初陣以後、利常の大坂役参加に至るまでの戦績を略記したものである。

マヘダケノキ 前田家之記 一冊。一名前田安太夫筆記。元和元年前田正虎著。富樫氏滅亡以後の事を略記し、前田利家の入國から、利常の参議昇進に至るまでを記した。正虎は慶次郎利太の子である。

マヘダケハンインカガミ 前田家判印鑑 一冊。森田平次編。社寺或は民家に傳へた藩侯等の判及び印を見るに隨うて影寫したもので、同じ判形でも運筆の異なつたものはこれを輯録してある。

マヘダケホウコクシヨウシヨシウロク 前田家封國證書集録 二冊。森田平次著。前田家の封國加恩の年月等は、有澤永貞の領分次第・富田景周の本封叙次考等に載せるが、事實に違ふ所多しとして、織田信長以來の朱印狀等を集録し、これに考按を加へたものである。

マヘダケリヤクキ 前田家略記 一冊。著者不明。加賀藩主前田利家以來の略傳、三州

の領内となつた顛末、争戰の年歴、藩士の戦功等が記され、終に大槻朝元の事を載せてある。

マヘダサダカツ 前田貞一 加賀藩臣。通稱又勝・圖書。寛延二年養父中務貞幹の遺知七千石を襲ぎ、寶曆七年定火消を経て、明和八年御家老、同年在江戸中兼若年寄に任じ、文化六年致仕して龍山と號し、千石を受け、文政中歿した。

マヘダサダサト 前田貞里 加賀藩臣。利豐の子。幼名又勝、後出雲。諸氏系譜に諱を貞重に作るものは非であらう。祿四千五百石から七千石となり、遂に御家老に列した。慶安四年十二月貞里は藩侯利常と意合はず、爲

に下屋敷に籠居して仕を辭せんとしたが、大聖寺侯利治から使を派して之を宥めたことがある。明曆三年七月廿九日歿、年四十一。法諡南桂院叢月道林。その著に長和佳兵私記・聞見雜錄一名貞里輯録又は士林叢談・前田出雲覺書一名高德院戰功殘遊覺書・寸錦雜編がある。

マヘダサダチカ 前田貞親 加賀藩臣。通稱備前。父は貞里。祿七千石。貞享三年十一月若年寄となり、元祿四年六月御家老に列し、十年六月小松御城代に任せられ、寶永二年十月十五日歿、享年五十三。

マヘダサダナホ 前田貞直 加賀藩臣。通稱中務・圖書。寶永二年父備前貞親の遺知七千石を襲ぎ、正徳三年小松御城番、享保三年定火消を経て、十八年十月御家老に進み、延享元年五月廿一日五十九歳を以て歿した。

マヘダサダミチ 前田貞道 加賀藩臣。通稱又勝・中務。享和二年新知千石を受け、文

化六年定火消を経て、同年父圖書貞一致仕の後七千石を襲ぎ、文政元年御家老、五年當分兼若年寄に任じ、六年三月四日歿した。

マヘダサダモト 前田貞幹 加賀藩臣。通稱外記・中務。延享元年父圖書貞直の遺知七千石を襲ぎ、元文五年若年寄見習、寛保二年若年寄、延享二年御家老に任じ、寛延二年六月廿四日六十九歳を以て歿した。

マヘダサダワザ 前田貞事 加賀藩臣。通稱圖書。文政六年養父中務貞道の遺知七千石を襲ぎ、七年定火消、九年小松御城番、同年御家老、天保元年兼若年寄等に任せられた。

マヘダシゲノブ 前田重晴 加賀藩主第九代。吉徳の五男、母は善良院。享保二十年十一月八日金澤に生まる。幼名嘉三郎。延享四年五月十一日諱を利見と稱し、寛延二年三月出府、寶曆元年十二月廿八日從五位下上總介に叙任。三年四月兄重熙の嗣子となり、五月十八日家督相續の命を受け、六月四日加賀守と改め、同月十二日徳川家重の偏諱を賜うて重靖といひ、正四位下左近衛權少將に叙任。九月二十九日江戸に卒し、十月五日發喪。享年十九。法號天珠院嘯月仁勇大居士。天徳院に葬る。重靖字は龍韜、唎、清湖、擒藻齋等と號し、詩賦を好み、又和歌を有栖川一品親王に學んだ。その歌集に拾藻和歌集・天珠公詠歌百首がある。

マヘダシゲヒロ 前田重熙 加賀藩主第八代。吉徳の二男、母は心鏡院。享保十四年七

月廿四日江戸に生まる。幼名龜次郎。元文五年十二月廿一日諱を利安と稱し、寛保三年十二月廿一日從五位下但馬守に叙任、延享三年十二月十日兄宗辰の嗣子となり、四年正月廿六日家督相續の命を受け、同年二月四日加賀守と改め、同月十九日徳川家重の偏諱を受けて重熙と稱し、正四位下左近衛權少將に叙任、寛延元年十二月廿一日左近衛權中將に陞り、寶曆三年四月八日江戸に卒し、十二日發喪した。享年廿五。法號謙徳院緝甫尚古大居士、野田山に葬る。重熙字は緝甫、尚古堂と號し、政暇國雅を嗜み、小松の天満宮に收めた松梅百首を遺し、又謙徳公和歌詠草がある。

マヘダシゲミチ 前田重教 加賀藩主第十代。吉徳の七男、母は實成院。寛保元年十月廿三日生まる。幼名健次郎。寶曆三年十月十二日兄重晴の嗣子となり、十五日諱を利駕といひ、四年三月十一日家督相續、四月十五日正四位下左近衛權少將兼加賀守に叙任、徳川家重の偏諱を賜うて重基と稱し、五年十二月十八日左近衛中將に陞り、明和二年十二月十五日諱を重教と改め、八年四月廿三日請ひて致任を許され、同月廿七日肥前守と稱したが、天明五年九月以降亦次代治脩の政を攝し、六年六月十二日(實は十一月夜半)金澤に卒した。享年四十六。法號泰雲院仁山彭壽大居士、野田山に葬る。治脩字は道積、九泉又は以寛齋と號し、詩賦を好み、延樂集附春較草・江山集がある。

マヘダシゲモト 前田重基 ↓マヘダシゲミチ 前田重教。

マヘダスミタカ 前田純孝 加賀藩臣。通稱内記。天明四年養父左京孝博の遺知四千石

を襲ぎ、天保元年父圖書貞直の遺知七千石を襲ぎ、元文五年若年寄見習、寛保二年若年寄、延享二年御家老に任じ、寛延二年六月廿四日六十九歳を以て歿した。